

委託事業実施内容報告書

平成23年度「生活者としての外国人」のための日本語教育事業

【日本語指導者養成】

受託団体名 特定非営利活動法人 伊那国際交流協会

1 事業の趣旨・目的

退職教員等に、外国籍の児童・生徒に日本語指導を行うための様々なスキルを身につけてもらい、日本語指導ができるようにする。特に現在学校で、外国籍児童の指導に関わる先生方が参加できるように、火曜日の午後3時～5時に講座の日時を設定し、下記の内容で行う。

- (1) 学校における日本語指導の現状と課題
- (2) 生活言語指導から学習言語指導へ
- (3) 児童・生徒の日本語力、学習能力に応じた指導のあり方
- (4) 日本語習得の理論と実際
- (5) 日本語の言葉と文法の成り立ち
- (6) 自作教材の作製と活用
- (7) 多文化共生時代の第二世代の現状

2 運営委員会の開催について

【概要】

開催日時	開催場所	出席者	議題	会議の概要
5月15日	創造館2階 会議室	春原直美 酒井敏行 北原正治 吉岡郁子 尾崎昭博 武田恵江 北野文健 霍 然 藤本純子	1. 運営委員会の役割、 仕事について 2. 自己紹介 3. 事業の概要説明 4. 現状についての報告 5. チラシについて確 認、検討 6. 今後について	1. 運営委員会の役割、 仕事についての理解 2. 簡単な自己紹介 3. 事業の理解 4. 上伊那地域の外国 籍住民の問題点と現 状の理解 5. ちらしの印刷、配布 方法についての確認 6. 講座、運営委員会の 日程内容についての 検討
7月23日	伊那市生涯 学習センター	春原直美 酒井敏行 北原正治 吉岡郁子 尾崎昭博	1. 講座について 2. アンケートのまとめ 3回を終了しての意見 のまとめ 3. 今後について	1. 講座の様子の報告 2. アンケートを基に、3 回までの講座につい て振り返る。 3. 今後の運営委員会、

		武田恵江 北野文健 霍 然 藤本純子		講座の予定を検討 4. その他、 他地域、伊那地域の 報告
10月1日	伊那市生涯 学習センター	春原直美 北原正治 吉岡郁子 尾崎昭博 武田恵江 北野文健 藤本純子	1. 今までの講座を振り返って 2. 川上先生の講座、チラシについて 3. 最終回の講座について 4. 今後の計画 5. その他	1. アンケートから、今までの講座について振り返る。 2. 川上先生の講座についての検討 3. 最終回の内容、教材の検討 4. その他、報告事項
11月4日	伊那市生涯 学習センター	春原直美 北原正治 吉岡郁子 尾崎昭博 武田恵江 北野文健 藤本純子	1. 川上先生の講座について ちらしについて 2. 最終回の日時、内容について 3. 今後について	1. 川上先生の講座の詳細確認。ちらし配布の詳細確認 2. 最終日の日時、日程についての検討、確認 3. 運営委員会の日の検討
1月7日	伊那市生涯 学習センター	春原直美 北原正治 吉岡郁子 武田恵江 北野文健 霍 然 藤本純子	1. 講座一覧表 日程表の確認 2. アンケートから講座を振り返る。 3. 運営委員の皆さんの意見、感想など 4. その他	講座をアンケートなどから振り返って、反省点、意見、感想などを話し合う。 来年度の講座について その他 他地域の活動の報告

【写真】

別紙

3 養成講座の内容について

- (1) 講座名 退職教員等のための日本語指導者養成講座
- (2) 目標 退職教員等に、外国籍の児童・生徒に日本語指導を行うための様々なスキルを身につけてもらい、日本語指導ができるようにする。
- (3) 受講者の総数 29人
(出身・国籍別内 ブラジル1人、中国1人、日本27人)
- (4) 開催時間数(回数) 20時間 (10 回)
- (5) 参加対象者の要件
外国籍児童、生徒の日本語指導に、興味関心のある退職教員をはじめとし、学校の日本語指導教室に関わっている先生方、またボランティアの皆さん。
- (6) 受講者の募集方法
・上伊那地域の教育委員会、退職教員の会に働きかけ、先生方が参加できるように教育委員会から学校長宛で案内、チラシを配布していただく。また、教育会館を

通して、上伊那の各小中学校へ配布。

- ・地域の日本語教室のボランティアには、協会事務局から案内、チラシを配布する。
- ・個人的にチラシを配布し、講座への参加を伝える他、各新聞社へ掲載依頼をし、広く募集した。

(7) 会場 伊那市生涯学習センター、センターが使用できないときに創造館

(8) 使用した教材・リソース

- ・ひろこさんのたのしいにほんご ・子どものにほんご ・ヤングのための日本語
- ・日本語学級 ・にほんごをまなぼう ・日本語ワークブック
- ・レベル別日本語多読ライブラリー ・どんどん読めるいろいろな話 ・みんな日本語
- ・かんじだいすき 一～六 、社会・理科編、国語算数編 ・日本語を学ぼう
- ・日本語学級 ・ことばと学ぶ算数文章題 ・小学校教科語彙リスト
- ・国語教科書対応 外国人児童生徒を教えるためのリライト教材
- ・中学校教科語彙リスト ・教科につなげる 学習語彙・漢字ドリル
- ・学校教育における JSL カリキュラム 小学校編 国語科 算数科 理科 社会科
- ・学校教育における JSL カリキュラム 中学校編 国語 数学 理科 社会 英語
- ・外国人児童の教科と日本語シリーズ JSL 国語科算数科理科社会科読解の授業作り
- ・移動する子どもたちと日本語教育-日本語を母語としないこどもの言葉の教育を考える。 ・「移動する子どもたち」の考える力とリテラシー ー主体性の年少者日本語教育学 ・「移動する子どもたち」のことばの教育学 ・私も「移動する子ども」だったー異なる言語の間で育った子どもたちのライフストーリー

(9) 講座内容

日時	講座名／学習内容	講師	受講者数
6月21日 15:00～17:00	開講式、オリエンテーション 学校における日本語指導の現状と課題 ・講座の趣旨の説明 【講義内容】 ・よりよい日本語指導を求めて 子の課題を教師（指導者）、子ども（学習者）の両側から考える また、指導体制から見た場合 ・D 君の指導方法を考える グループディスカッション	箕輪中部小学校教諭 日本語指導教室 北原 正治	14人

	・背景にある日系人移民の歴史 ・外国籍等(母語が日本語でない)の児童・生徒の指導で気をつけること 学習面、生活面 ・日本語指導で大事にしていること ・初期の取り出し指導から学級に送り出すまで		
7月5日 15:00～17:00	「第2世代の子どもたち」～すべての子どもに教育を～ 【講義内容】 ・長野県内の概要 外国籍県民、子どもたちの状況、相談事例、 ・それぞれの現場 集中日本語教室、虹のかけはし事業、中信多文化共生ネットワークの取り組み、ブラジル人学校、上田市の取り組み、高校進学ガイダンス ・県外のこと 集住都市会議、東北地方では、豊田市、保見の取り組み ・日本語指導について 児童生徒の指導、地域の日本語教室、指導に必要な教材、道具、指導法研修会、 ・地域で支える/こんな助っ人、こんな方法 ・多文化共生社会の時代	前財団法人長野県国際交流推進協会 常務理事兼事務局長 春原 直美	17人
7月19日 15:00～17:00	「外国籍等児童生徒への日本語学習支援」～松本の指導事例～ 【講義内容】 ・外国由来の子どもたち ・日本語ボランティアと	松本市子ども日本語支援センターコーディネーター 川澄 利枝子	14人

	験共有を重視 ・飯島小学校の日本語 教室の開設から今日 までのあれこれ ・多様な子どもにかか わってきて ・外国籍児童の生徒指 導 ・保護者の支援を大事 にして 懇談会・参観・社会 見学 ・家庭での教育方針、 親の考え方で変わる 子どもたち		
9月27日 15:00～17:00	外国籍児童の指導 ～学習・生活・行事を 通して～ 【講義内容】 ・日本語指導教室の学 習の様子 時間割、学習プリント 授業の流れ、算数の 一斉指導の試み ・宿題のこと ・生活指導に関わるこ と ・全校に向けて 北小コンサート、仲 良し集会、国際理解 （母の気持ち、ブラジ ル日本移民100周年） ・交流会の紹介	箕輪北小学校教諭 日本語指導教室 北野 文健	14人
10月11日 15:00～17:00	外国籍児童生徒の夢 の実現のために 【講義内容】 上田市第一中学校の 日本語指導教室のスタ ートから現在まで ・授業風景 ・教材の工夫 ・通訳の先生とのかか わり ・原学級との関わり ・卒業後の進路 ・生活言語と学習言語 の違い ・先生の心得	上田市立第一中学校講師 日本語指導教室 小泉 紀代子	12人

	・ダブルリミテッドの生徒 ・指導案の工夫 ・日本語教室での学習 ・漢字の指導について ・生活・生徒指導		
11月1日 15:00～17:00	日本語教室と原学級の両方を担当して 【講義内容】 ・神科小学校での具体的な学習・生活指導 ・芹田小学校で居場所としての教室 誤解される子どもたちとその支援 学習の場としての教室 ・JSLカリキュラムを使 っての授業 教室環境の整備 ・見えてきた課題 ・芹田小学校と並柳小 学校の原級で * 明日から使える教材 作り 作った教材を 使った指導法	松本市並柳小学校 教諭 鈴木 麻緒	12人
11月20日 13:00～15:00	「移動する子ども」のことばの力をどう支えるか 【講義内容】 ・移動する子どもたち ・ことばの力とは何か 課題文を読んで全体 でのQ&A ・ことばの力はどのよう に見えるのか グループディスカッション ・JSLバンドスケールを 使った取り組みー三 重県鈴鹿市の例 ・子どもたちへの【こと ばの支援で必要な観 点とは何か グループディスカッション	早稲田大学大学院 日本語教育研究科教授 川上 郁雄	20人

12月20日 15:00～17:00	JSLカリキュラムについて 算数科における教科学 習指導法の工夫 【講義内容】 ・指導の課題について ・JSL カリキュラムの開 発について ・JSL カリキュラムはど んな子に ・学習に参加するた めの学ぶ力の育成 ・AU Activity Unit に ついて ・トピック型 JSL カリ キュラム ・教科志向型 JSL カリ キュラム ・領域別系統表の開 発 ・新学習指導要領完 全実施について ・発達心理学との出 会い ・計算式を劇化する ・JSL カリキュラムを 使った様々な指導 ・日本語の学び	群馬県邑楽郡大泉町立東 小学校教諭 市川 昭彦	9人
-----------------------	---	-------------------------------	----

(10) 講座の評価

①受講生に対するアンケート

アンケートのまとめは、別紙。

アンケートからは、講座は、良かった、役立ったとの意見が多く、講座回数は10回だったが、充実した学習ができた。

②実施主体からの研修内容結果評価

- ・退職教員の方は、3人であったが、日本語指導教室の現場で指導する先生方が、忙しい時間をやりくりし参加していただき、現場で生かせる講座をとの希望に沿って講師の選定を行い、研修できた。
- ・10回の講座のなかで、県外からは3名の講師の方をお願いしたが、普段お話を聞けない先生方からの講義を受けられ、充実した講座であった。
- ・教員だけでなく、学校や地域で外国籍児童の支援をしているブラジルのかた、ボランティアの皆さんも参加して、グループディスカッションでは、教員の立場とは違う目線での意見を交換することができ、非常によかった。

③実施主体からの外国人支援体制等今後の計画

- ・今迄通り、木、金、土曜日に開催の日本語教室「さくら組」で、生活者としての日本語指導を中心に、日本語能力検定試験希望など、ニーズに合わせた日本語学習をボランティアにより行う。
- ・外国籍児童生徒は、2002 年から続いている土曜日の「親と子の日本語教室」で、日本語学習、および教科補修を教師がボランティアで行う。
- ・「親と子の日本語教室」で、24 年度も長野県国際交流推進協会等の助成金を受けることができれば、希望の内容にあった講師を招いて年 1 回でも講座を開催したいと計画している。また、今まで個人負担だった日本語教材、教科学習教材などを購入して、学校の日本語指導教室での利用に役立てる。

(11) 事業の成果

① 他事業との連携

文部科学省の委託事業、外国人の子供の就学支援事業との連携。
厚生労働省事業 JICE による、就労のための日本語教室への協力。

② 研修後の人材活用

- ・講座を通して、育成した人材を今後の外国籍児童生徒の指導に役立てるように受講者の了解のもと教育委員会、学校、日本語教室などに紹介する。
- ・講座に参加した人の中で、学校の日本語指導教室でボランティアを行っている方たちが、教室での指導に役立てることができた。

(12) 今後の課題

- ・先生方が参加しやすい曜日、時間を選んで講座を開催し、申し込み人数は、29 人でしたが、学校の行事などで、参加できないことも多く、その点は残念であった。
- ・日本語指導に力のある先生、せっかく日本語指導について学んだ先生方が、日本語指導教室の担当になるとは限らないので、力を発揮できないケースも見受けられる。ダブルリミテッドの児童生徒が増えてきている状況を考えると、小、中学校の日本語指導教室の先生の役割は大きく、指導力のある先生を配置できるとよい。
- ・外国籍児童生徒の日本語及び教科学習を指導するための研修会は、教育委員会でも年に何回か開催しているが、経験のない先生が日本語指導教室に配属された場合に悩みや、指導法に関してすぐ相談できる場所がほとんどない。講座の参加者、特に運営委員を中心に研修内容を役立てていきたい。
- ・講座の名前が、「退職教員等のための日本語指導者養成講座」だったので、ボランティアや一般教員の方が参加しづらいとの意見もあり、講座の名前の付け方も工夫がいたった。
- ・退職教員の皆様に、外国籍児童の教育に関して興味関心を持ち協力いただける機会をつく

っても、参加いただけないことが多いが、理解を深める企画を工夫していきたい。